

竹の子川柳会

まちがえてテストをなおすむずかしい

小一 新野 翔太

朝起きてこおりついてた水たまり

小四 山田 清也

新春の私のねがいとどくかな

小四 小原 麗羽

春休みまだかとずっとまってる

小五 石崎 海士

春になり虫や動物目をさます

小六 瀧本 ななみ

目ざめると時間がなくてすぐ起きる

中二 菅本 聖羅

早起きをするといいいことありそうだ

中二 清原 沙耶

さあ行こうその手をつかみ起き上がる

高一 宮崎 京

一年の自分見直す駄目なところ

高二 宮川 直輝

大丈夫曇った心を治す声

高二 榎 美咲

転んでも負けじと起きる根性だ

高二 上岡 夢菜

起きる時なぜか力が入らない

高三 渋谷 裕紀

平日の朝は起きて二度寝する

高三 山口はると

早起きをした日は少し良い気分

高三 榎 美琴

望郷の里様変わり見たショック

男武志津江

脳トレが老いのリズムを思い知る

米子 達雄

我が思い人に伝える難しさ

水野すみこ

尻餅は大白らしい雪の跡

渡辺 光男

脛笑い尻餅搗いた老いの坂

熊本 忠真

お正月あれれお腹が鏡餅

伊勢本 恵

珍客は貴重な話題乗せて来る

宇都宮 忍

客一人来ない我が家の応接間

宮川 柳酔

新年の誓い新たに飲むお屠蘇

川添 忠昭

傘寿の酉五年日記に息を入れ

渡辺 照子

三ヶ日だけとは妻が特級酒

山本 雅之

早く去んでほしいお客が膝崩す

若宮 賢敬

初恋を一筋ついにゴールイン

宇津本アヤ子

鬼北の足跡を辿る…【鬼北の霊山 第6回】

「神の棲む山・郭公岳」

松野町豊岡に「正善寺」というお寺があります。ここに伝わる「正善寺旧記・擬旧記」（松野町指定文化財）には、「奈良山」の記述があります。

として山頂に置かれ、またそれは鎌倉時代まで遡る可能性が高いといえます。

では、「奈良山の絶頂」とは、どこを指すのか。ご神体としての山には必ず磐座（いわくら）という神の降り立つ場所があります。自然の大岩の場合が多く、山頂付近に存在するかどうかが決め手になります。

奈良山の中心は三本杭山ですが、山頂は笹地であり目立つ岩がありません。その北側正面に位置するのが郭公岳で、山の南面は「郭公崖」といって、岩盤が露出した絶壁です。まさに巨大な磐座なのです。「神の棲む山・郭公岳」。のちに、等妙寺が置かれた理由もここにあるものと思われまふ。

この記述から何がわかるのかというと、奈良山の信仰の根底に弥勒信仰があるということです。弥勒は来世を表す仏で、弥勒信仰とは、死後、弥勒の棲む世界へ往生しよう、あるいは釈迦の説法にもれた衆生を弥勒が救うといった思想で、平安中期に貴族の間で盛んになります。

弥勒尊像は、奈良山の神の化身



郭公岳南面の「郭公崖」（南から）

ひよし川柳会